



発達障害児・者への総合的な支援

発達障害のある人たちは



- 先天的な脳機能の障害で、その症状は低年齢から現れる。
- 対人関係やコミュニケーション、行動面に問題を抱えているため、集団生活に支障を来すことが多い。
- 外見からは分かりにくいいため、周囲から誤解されがち。

- 早期に気付き、適切な支援を受けることで本人と家族の負担が軽減
- 得意分野で能力を発揮できる『人財』として自立が可能

発達障害児・者支援プロジェクトにおける5年間の成果（平成23年度～27年度）

乳幼児期の早期発見・早期支援から
成人期の就労支援までの支援体制を確立





発達障害児への支援



早期発見・早期支援できる人材の育成

○発達障害に早期に気づき、適切な支援ができる人材を**10,546人**育成

(平成27年12月末)



①保育所、幼稚園等 **5,856人** 平成23年度～
(1園3人の支援体制)

②市町村 **769人** 平成23年度～
(障害福祉、子育て支援、母子保健の3分野で相談対応)

③小学校 **3,921人** 平成25年度～
(1校6人の支援体制)

保育所・幼稚園等への巡回支援

○作業療法士等の専門職が保育士等を現場で支援
・延べ**4,649回**巡回、**18,826人**の子供を支援

診療・療育体制の強化

○専門的な支援が必要な発達障害児に対応できるよう受入れ機関を設置

中核発達支援センター

3か所

- ・診療、療育の拠点
- ・医療的な支援が必要な子供に対し
診察、投薬、個別療育を行う



■早期発見が可能になったことに伴い、専門的な支援を求める保護者が増加したため、平成27年度に新たに設置

地域療育センター

6か所

- ・身近な地域の療育機関
- ・発達が気になる子供に対し、
専門職が個別療育を行う





早期発見・早期支援の成果



保育所・幼稚園の成果

保育所・幼稚園の研修受講者アンケート

① 先生の変化

⇒ 早期に気付けるようになった

(受講前)
27.4%



(受講後)
82.3%

⇒ 園全体で対応するようになった

79.6%

■ 園全体で気が散りやすく集中できない子供に短い言葉ではっきりと声掛けするようになった

② 子供の変化

⇒ 子供の行動に変化があった

67.9%

■ 事前に絵カードで一日のスケジュールを示したところみんなと行動できるようになった

③ 保護者の変化

⇒ 保護者の行動に変化が見られた

84.7%

■ 子供が園で集団生活に馴染めていない状態を受け入れ、専門機関に通うようになった

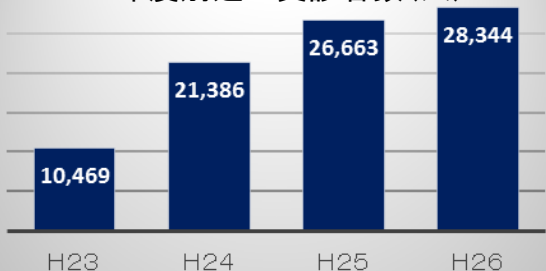


診療・療育の成果



中核発達支援センターの利用状況

年度別延べ受診者数(人)



※平成23年度は2か所
平成24年度から3か所



地域療育センターの利用状況

月別延べ利用者数(人)



※平成27年度に開設
6月は1か所、7月から6か所



【地域療育センターでの療育の実施例】

【問題となる子供の行動】

- 相手の気持ちが分からず
友達の嫌がることを
言ってしまう



【専門職が行った支援】

- 絵カードや写真を使って人の表情
から気持ちを読み取る練習をした



【子供の変化】

- その場に合わせた行動が
でき、友達とのトラブルが
減った





就 労 の 支 援



発達障害者就労支援センターの設置・運営
～能力を引き出し、社会で活躍できる『人財』へ～

発達障害者に特化し、就労相談から職業能力評価、就労訓練、就職活動支援から職場定着までを**ワンストップ**で支援

- ジョブセンター川口（平成26年度～）
- ジョブセンター草加（平成26年度～）
- ジョブセンター川越（平成27年度～）



就 労 相 談

- ・本人、家族、学校、企業などからの発達障害に関する相談に幅広く対応

職 業 能 力 評 価

- ・軽作業を通じて得意・不得意を評価

就 労 訓 練

- ・オフィスを再現し会社での業務を体験するトレーニング

就 職 活 動 支 援

- ・模擬面接や企業面接への同行支援
- ・受入れ企業の開拓

職 場 定 着 支 援

- ・就職後も定期的に職場を訪問し、本人と企業双方を支援

【就労相談】

○本人だけでなく、家族や学校、企業からの相談1,189件に対応(平成27年12月末)

【就労訓練】

○就職を希望する210人に就労訓練を実施
○**86人**が就職し、112人が就職を目指して訓練を継続(平成27年12月末)